



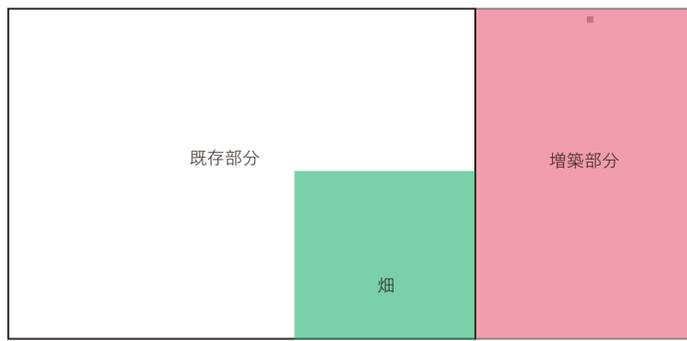
1 コンセプト

家庭菜園でつながる家

各部屋が畑を囲い、畑を内部空間に入り込ませることでどこにいても畑が見え、趣味を思いきり楽しんだり、子供がお手伝いをするなど家族がつながれる。近隣住居に面する南側に畑を置くことで家庭菜園の様子が見えたり、近隣住居がやっている家庭菜園で収穫した野菜を持ち寄りお食事会ができるなど、家庭菜園をきっかけに家族や近隣住民と繋がる。

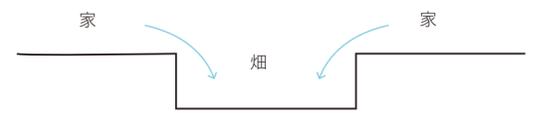
既存の躯体をできるだけ残り増築部分には京都市内産のスギヒノキを用いることで、古民家の保存活用による地域の活性化を促しながらも、木のぬくもりを感じる、環境にも暮らす人や地域にとっても優しい住宅となっている。

2 ダイアグラム



家庭菜園を中心に展開していく

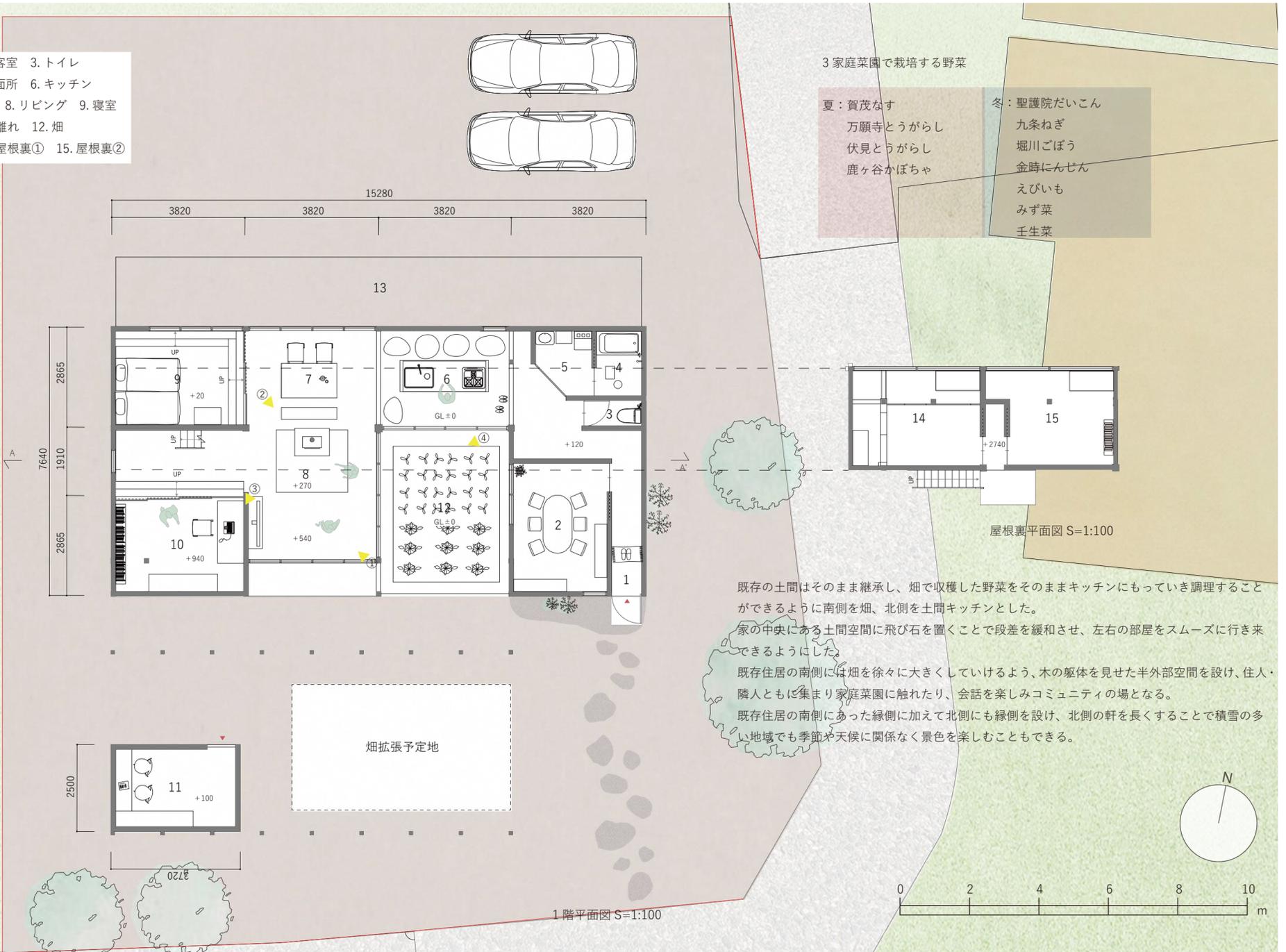
畑が真ん中に来るよう増築
→家庭菜園を中心にコミュニケーションが生まれ、家族のつながりが広がっていく



畑のレベルを一段下げる

一人が集まりやすく、外からだけではなく家の中からも日常風景として家庭菜園を楽しめる

- 1. 玄関 2. 来客室 3. トイレ
- 4. 浴室 5. 洗面所 6. キッチン
- 7. ダイニング 8. リビング 9. 寝室
- 10. 書斎 11. 離れ 12. 畑
- 13. 縁側 14. 屋根裏① 15. 屋根裏②



3 家庭菜園で栽培する野菜

- | | |
|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <p>夏：賀茂なす
万願寺とうがらし
伏見とうがらし
鹿ヶ谷かぼちゃ</p> | <p>冬：聖護院だいこん
九条ねぎ
堀川ごぼう
金時にんじん
えびいも
みず菜
壬生菜</p> |
|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|

既存の土間はそのま継承し、畑で収穫した野菜をそのままキッチンにもっていき調理することができるように南側に畑、北側を土間キッチンとした。

家の中央にある土間空間に飛び石を置くことで段差を緩和させ、左右の部屋をスムーズに行き来できるようにした。

既存住居の南側には畑を徐々に大きくしていけるよう、木の躯体を見せた半外部空間を設け、住人・隣人ともに集まり家庭菜園に触れたり、会話を楽しみコミュニティの場となる。

既存住居の南側にあった縁側に加えて北側にも縁側を設け、北側の軒を長くすることで積雪の多い地域でも季節や天候に関係なく景色を楽しむこともできる。

1階平面図 S=1:100

屋根裏平面図 S=1:100

子供部屋からリビングダイニングが見えることで縦の繋がりもできる

敷地の角から人々が入り出すと見え、人の行き来の多い箇所に来客室を設けることで近隣住民を招くことができ、団らんの場にもなる。

